

米作り、二千年にわたる大地の記憶～ 菊池川流域「今昔『水稲』物語」(熊本県)



菊池川流域に稲作とともに栄えた 人々の文化

熊本県北部を流れる菊池川は、阿蘇外輪山を源流とし、有明海に注ぐ延長71キロに及ぶ河川です。2000年前から稲作が行われていたこの流域では、弥生時代から米作りを可能にした先人たちの叡智の結晶により、文化も育まれ、日本遺産に登録されました。



秋になると番所地区の棚田をヒガンバナが彩ります



玉名市で毎年11月に開催される大儀祭り



今でも現役の御宇田井手



大和朝廷が重要拠点とした鞠智城

先人の土地利用が
豊かな文化をもたらす

菊池川流域で始まった稲作は

豊かな水流を活かし次第に発展し、8世紀頃には「条里制」と呼ばれる土地区画制度により、計画的な米作りが始まります。これは一辺109メートル四方の基盤目状の水田で稲作を行ったもので、その区画は現在でも見られます。流域には米で富を得た豪族の古墳が密集し、大和朝廷もこの地を重要拠点として、古代の軍事補給基地である鞠智城が建てられました。

商人らが建てた芝居小屋「八千代座」は賑いを生み、文化を育んで行ったのです。

観光客目線でPRを

中世以降、稲作は山間部に広まり、山の斜面を利用した棚田がつくられ、井手(用水路)が整備されます。流域の町や村には米問屋や酒蔵、麴問屋などが軒を連ね、

菊池川流域の玉名市、山鹿市、菊池市、和水町は古墳群や酒蔵など、個々に観光素材を有していますが、「日本遺産認定を通して相互に連携し、文化財のより有益な活用を図ろうと考えた」と協議会。現在の観光の拠点は山鹿市の八千代座や菊池渓谷などです。さらなる誘客に向け、福岡、熊本都市圏在住の20～30代家族、海外は香港・台湾の30代女性をターゲットに、ホームページ上にモデルコースを掲載し、アピールに努めています。旅行会社に対してはセールスツールなどを作成し、商品造成に向けた販売促進を行っています。



八千代座には坂東玉三郎も出演



菊池渓谷

目線でPRを展開していく。日本遺産にはかのキラコンテンツと組み合わせるなど、テーマをしっかりと立てて商品化を図りたいとしています。